

第41回

うつのみやこども賞だより

令和6(2024)年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『夜光貝のひかり』

遠藤 由実子／作 (文研出版)



令和6年7月7日

～読んだ本の感想より～

- 小夜子の言葉が心に1つ1つささった。私もいつか奄美に行きたい。そして、ちゃんと戦争の歴史と向き合ってみたいと思った。
- どこかほかない、ルリとの別れ。でも、最後まであきらめなかった彼方の「あきらめない気持ち」が伝わってくる、とても感動するお話でした。
- 幽霊の小夜子は死んでも夢をあきらめなかったところが、とてもぐっときました。そんな小夜子だったから、彼方の気持ちも変わったのかなと思いました。
- いろいろな言葉や物で、ルリの記憶がよみがえってくるのが、ふしぎでおもしろかった。
- 少女の記憶を探しながら、奄美大島の文化や自然、戦争の歴史などの知識が自然と入ってきておもしろかった。
- ルリが戦争の記憶を戻すにつれて彼方が成長したり、奄美大島の歴史を知ることができて、おもしろかったです。
- 彼方が奄美大島にいる間に起きた不思議な出来事をきっかけに、戦争について考え、身近に感じていくところが心に残った。

『アオナギの巣立つ森では』にしがき ようこ作 (小峰書店)

- 巣立ちを見送ったときはさびしかったと思うけれど、最後、また会えて良かったと思った。
- 自然を大事にしていく2人を見て、感動した。また、榎が「わし」というのがおもしろかった。
- オオタカなどの動物は絶滅させることはできるけど、それを戻すことはできないから、人に害をあたえる動物でも大切にしたいほうがいいと思いました。
- それぞれの夢へ向かっている人が歩いていく姿に感動した。
- 主人公の山についての物語や刀しょうのお話など、たくさんのお話が糸のようにつながっていくのが良かったです。

『いじめにパンチ!』 黒野 伸一／作 (理論社)

- 主人公のゆずはが、いじめっ子がいるクラスで、少しずつ良くなっていくことができ、すごくすっきりしました。
- 都会から引っ越してきた主人公が行った学校でいじめがあることに気づき、自分だったらこうしているだろうなと共感できる場所があったり、主人公の勇かんなどにも感心できるお話でおもしろかったです。
- ゆずはは1つ1つの問題を解決して仲間を増やしていて、すごいなと思いました。
- 小源太がかおりちゃんのことをいじめていたのは、好きだからだと分かって良かった。
- いじめは必ずあるもので、私の学校でも似たようなことがあるので、ミキちゃんや“アタシ”みたいに助けたいと思った。

『お金たちの愛と冒険』 小手鞠 るい／作 (文研出版)

- お金やお金の使い方などについてよく分かった。いろいろなところから話がつながっているところがおもしろかった。
- 投資や株のことについて分かりやすく書いてあって、面白かったです。
- この本の中身が「本を書いている人の作品」となっていておもしろかった。お金に名前を付けて区別しているのも良かった。